

南アフリカ 核果類の出荷予測は概ね横ばい

EUROFRUIT 2023年10月31日

南アフリカの核果類の出荷シーズンが始まり生産者らは改善を期待するもいくつかの課題

南アフリカ産核果類の今シーズン初の出荷予測では、ネクタリンは輸出量が増加し、モモはわずかに増加、モモは横ばいの一方、アンズは大幅に減少すると見込まれる。

栽培面積に関しては、ネクタリンが全体の傾向に逆行している。他の3つの品目は横ばいで推移するか減少しているが、ネクタリンは近年増加している。業界団体のホートグロ(Hortgro)は、「アンズの栽培面積は横ばい、モモは横ばいだが減少傾向にある。また、モモは横ばいを続けているが過去数シーズン非常に収益性が悪かったため、栽培面積がわずかに減少している」としている(以下「」は同団体の見解)。一方、ネクタリンは増加傾向が続き、総栽培面積は20%増加した。

「昨シーズン(2022/23年度)は、さまざまな悪天候の影響が、物流上の課題 - 主にケープタウン港の強風と処理能力や設備の問題 - によってさらに悪化したことで、収量が本来の収穫可能量を下回ったが、今シーズン(2023/24年度)の核果類の作柄に関するこの早い段階の見通しは前向きで安定している。」同団体は、この業界は果実の品質とサイズ及び物流チェーンの最適化を引き続き重視するとしている。「現在進行中の世界的なコストと価格のジレンマは引き続き運用コストに圧力をかけると見られ、このことは、バリューチェーン全体で効率、生産性、コストを精査することが緊急に必要であることを示している。」

長く雨の多い冬が続き、その結果、低温時間が積み上がり、十分な水が供給されてダムが満杯になった。しかし、その後、比較的涼しく雨の多い春が長引いており、一部の地域で開花と着果に影響を与えた。ただし、果実のサイズと品質はすべての品目で改善されると予想される。

ホートグロによると、核果類輸出量の当初の見通しでは、アンズは約24%減の45万箱(4.75kg/箱)が輸出されると推定される。この減少は、主に一部の産地での霜の影響によるものである。モモは昨シーズンと変わらず、217万箱(2.5kg/箱)の輸出が見込まれる。ネクタリンの輸出量は130万箱(17%)増加し、900万箱(2.5kg/箱)となる見込みである。ホートグロは、過去6年間に植栽された新しい果樹園が、果実の品質及びサイズの向上と輸出量の増加に寄与したとしている。

この国で最も多い核果類であるモモの輸出量は前シーズンの傾向に引き続き横ばいで推移すると予測される。輸出量はわずかに3%増加し、1,360万~1,400万箱(5.25kg/箱)と見込まれる。この増加は、若い果樹園が成園化した結果である。ホートグロはまた、涼しく湿った春が開花と着果にばらつきをもたらしたと指摘しつつ、業界全体として世界的な販売計画と販売約束を守るのに十分なモモがあることを確認した。

ホートグロは、シーズンが始まる中、世界の経済は高インフレによる個人消費の制約など、大きな課題に取り組んでいるとしている。「一方、生産者は収益性を獲得し、維持するためにさらに大きなプレッシャーに直面している。基本的に、生産者が提唱しているのは、業界のバリューチェーンに依存している人々の生活を守るための公正で正しい見返りである。」

「したがって生産者らは、平均的な出荷量(減少が予想されるアンズを除く)によって、南アフリカから世界中の取引先へのサービスが大幅に改善されることを期待している。南アフリカ産の優れた食味の果実を提供することに重点を置き、その結果として取引先を喜ばせ、リピート販売を実現している。最近、不規則で極端な気象条件が業界と我が国を襲っているが、業界はこれらの課題に立ち向かっており、今シーズンについて楽観的である。」

執筆者: フレッド・メインチェス